

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第682号 平成26年2月3日

## 子どもの幸福度と貧困（1）

「日本の子どもの幸福度は、先進31カ国中6位」というニュース（平成25年12月25日付朝日新聞他）を見て、子どもの貧困が深刻化している状況の中、納得するよりも違和感を覚えたのは私だけではなかろうと思います。

この日本の高い評価は、昨年（12月25日）公表された、国連児童基金（ユニセフ）と国立社会保障・人口問題研究所との共著による「イノチェンティ レポートカード 11『先進国における子どもの幸福度』日本との比較 特別編集版」の中で、明らかにされたものです。

「イノチェンティ レポートカード 11」というのは、ユニセフのイノチェンティ研究所が、先進国における子どもの状況をモニターし、比較する事を目的に、2000年以降その結果を公表しているもので、本年4月には、先進国の子どもの幸福度を、5つの分野において順位付けしながら考察した「レポートカード 11」を公表しています。しかし、この「レポートカード 11」においては、日本はデータ不足により総合評価の対象とされていません。この為、新たに国立社会保障・人口問題研究所の阿部彩氏、竹沢純子氏がイノチェンティ研究所の協力の下、日本のデータを追加して日本の状況についての考察を加え「レポートカード 11」の「特別編集版」という形で日本の子ども達の幸福度を公表したものです。

阿部氏が、「今回初めて、日本が国際比較の卓上にのったことは、日本の子どもの状況を客観的に捉える上で非常に重要であり、意義深いことです（日本ユニセフ協会の資料から）」と述べている様に、「特別編集版」を通して世界の子子ども達と対比する中で、日本の子ども達を巡る様々な課題が浮き彫りになった事は、大事な点だと思います。

さて、今回の幸福度調査は、「物質的豊かさ」「健康と安全」「教育」「日常生活のリスク」「住居と環境」という5つの項目について現状を分析し、「幸福度」を算出していますので、その結果を特別編集版の資料から見て行く事にしましょう。

この表を見ても分かる様に、日本の子ども達の幸福度は先進国の中で6位と健闘しています。

### 子どもの幸福度に関する総合順位

総合順位	国名	1 物質的豊かさ	2 健康と安全	3 教育	4 日常生活のリスク	5 住居と環境
1	オランダ	2	5	2	3	4
2	フィンランド	1	3	5	10	6
3	アイスランド	4	1	10	5	5
4	ノルウェー	3	8	7	6	3
5	スウェーデン	5	2	12	2	9
6	日本	21	16	1	1	10
7	ドイツ	10	13	4	11	14
8	スイス	11	12	17	13	2
9	ルクセンブルク	6	4	24	16	7
10	ベルギー	15	11	3	17	12

が特徴といえます。

明日は、その状況をもう少し詳しく見て行きたいと思います。(塾頭：吉田 洋一)

その理由は、「教育」と「日常生活のリスク」という2つの分野で1位を占めている事が大きいと思います。ただ、上位5カ国が各分野で平均して上位であるのに対して、日本の場合は、分野ごとの順位に大きなばらつきがあるの